

実機試験報告書（2002年10月29日付）

Volvo B10M60：分解不要で ディーゼルエンジン出力が向上

第1118自動車輸送隊公開株式会社、診断作業場・承認：技術部門責任者Yu.A.レオノフ・測定：診断技術者（職務代行）N.V.ペトロフ・生産技術準備部長M.E.ファリン

ムルマンスク（ロシア）・測定：2002年9月25日・2002年10月28日・報告書署名：2002年10月29日

製品

XADOゲル状リバイタリザント（摩擦面再生剤）
ディーゼルエンジン用・3段階処理、エンジンはバスに搭載したまま

試験対象

Volvo B10M60バス
車両管理番号2018、登録番号M 218 MM 51・ディーゼルエンジン

文書の種類

第1118自動車輸送隊公開株式会社の
署名・押印付き試験報告書

機械類

測定間の運転時間

測定項目

Volvo B10M60バス、車両管理番号2018、登録番号M 218 MM 51

33日間の路線運行で**4,000 km**超

暖機状態でのエンジン出力、黒煙濃度

処理はアルクティク・アフト有限責任会社（ムルマンスク）が実施した。処理前後の測定は第1118自動車輸送隊の診断作業場が行った。

主要結果

↑ **20 %**

暖機後のエンジン出力、80 → 96 kW

処理前後のエンジン出力

測定項目	処理前（2002/09/25）	4,000 km走行後（2002/10/28）	変化
暖機状態でのエンジン出力	80 kW	96 kW	+20%

両測定とも、第1118自動車輸送隊の同一の診断作業場において、暖機状態のエンジンで実施した。

バスにおける作業の経過

段階	日付	内容
処理前の診断	2002/09/25	暖機状態でのエンジン出力 80 kW 、黒煙濃度 83.3%
エンジンの処理	2002年9月	XADO Gel-Revitalizant for diesel engines、3段階、分解不要
運行	33日間	市内路線で 4,000 km 超を走行、バスは路線運行を継続
処理後の診断	2002/10/28	暖機状態でのエンジン出力 96 kW

エンジンはバスに搭載したまま処理された。分解・部品交換・稼働停止はいずれも必要としなかった。

試験報告書の記録事項

2002年9月25日、第1118自動車輸送隊公開株式会社の診断作業場において、Volvo B10M60バスの暖機状態でのエンジン出力**80 kW**、黒煙濃度**83.3%**が記録された。これは路線バスの摩耗したディーゼルエンジンの状態である。エンジンはバスから降ろすことなく分解せずに、XADOゲル状リバイタリザントで3段階の処理を行った。バスは路線運行を続け、**33**日間で走行距離**4,000 km**超に達した後、同じ診断作業場での再測定では**96 kW**となり、当初の値より**20%**高かった。この増加量は部品交換なしで得られたものである。金属セラミック皮膜はピストン・シリンダ部の摩耗した表面に形成されて気密性を回復させ、エンジンは再び出力を発揮するようになる。本報告書は事業所の技術部門責任者が承認し、第1118自動車輸送隊および処理実施者が押印している。

XADO

© XADO。無断転載禁止。
本結果は、市内路線で運行するVolvo B10M60バスのディーゼルエンジンについてのものである。他の機械類や異なる条件下では、測定値が異なる場合がある。第1118自動車輸送隊公開株式会社の2002年10月29日付試験報告書の原本（署名・押印付き）は全文を公開しており、ダウンロードできる。